

ふれあい四国路 2011 in 大豊に参加して

設計部設計一課 山内佐恵

1. はじめに

10月15日(土)、『ふれあい四国路 2011 in 大豊』が大豊町の“ゆとりすとパーク大豊”にて開催された。

『ふれあい四国路』とは、四国が1つになり道路に慈しみ、道路ボランティア活動を通して美しい町・美しい四国路になることを願う、四国四県の道路ボランティア活動の総称である。平成13年度から開催しており、今年度は大豊町で開催された。

弊社からは、嶺北出身ということもあり、右城社長夫妻（本山町出身）と私（大豊町出身）が参加した。



会場の様子



会場となった“ゆとりすとパーク大豊”は標高750mに位置し、植物園、ハーブ園、オートキャンプ場などが整備されており、高原リゾートとし多くの人に利用されている。
(写真は観光パンフレットより)

2. 開演

交流会実行委員長 坂田喜昭氏から開会の挨拶があり、引き続き、大豊町長 岩崎憲郎氏より歓迎の挨拶があり、交流会の幕が開けた。



開会の挨拶をする坂田実行委員長



歓迎の挨拶をする岩崎大豊町長

3. 講演

「れいほく活性化機構へのご招待」と題し、特定非営利活動法人 れいほく活性化機構副理事長 岩本誠生氏より講演があった。

岩本氏の話の中で、私の印象に残った2点を紹介する。

まず1点、3つの坂の話。

人生に3つの坂があり、調子の良いときの“上り坂”、調子が悪いときの“下り坂”、そしてもう1つ。私は全く思い浮かばなかった。答えはまさか。なるほど！！とうならされた。

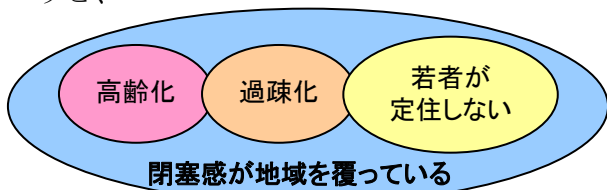
記憶に新しい3月11日東日本大震災、そのとき岩本氏は東京に出張中であつた。まさにまさかに遭遇したのである。

高知に帰れなくなった岩本氏は、飛行機をキャンセルし、帰宅困難者と共に駅の構内で一晩明かしたそうだ。そのとき、構内にある飲食店の人たちから暖かい飲み物とスープを頂き、人のぬくもりに触れたと話していた。

今回の震災で、私は日本人の冷静さと強さ・ぬくもりを感じた。普段、都会の方はどうしても冷たく見えてしまいがちだが、この一件を聞き、私の方まで暖かい気持ちになった。

もう1点は、本題であるNPOの活動についてである。

岩本氏の属している“れいほく活性化機構（通称：れいほくNPO）”はなぜ、れいほくNPOを設立しなければならなかったかという



という問題があつた。しかし、嶺北が大好きで「どうにかせんといかん！！」ということで、「自治体の枠を超え、自分たちにできることから活動し、嶺北を活気ある町にしよう。」という志から活動を始めたそうだ。

れいほくNPOでは「産業部会・環境部会・福祉部会・防災部会・情報部会」の5つの部会に分かれて、それぞれの活動を行っている。前年度は『れいほく元気プロジェクト』というプロジェクトをスタートし、ボランティア団体（16団体）よりアイデアを収集し、地域の活性化につながるプロジェクトを選出し、れいほくNPOが支援した。今年度、支援により様々なボランティア団体がイベントなど開催しているそうだ。最後に、NPOが存続するためには「行政との協働を考えなければならない。」と話していた。

嶺北を元気にしていくには、れいほくNPOは必要不可欠な団体だと思う。行政・地元などと手を取り合い、活性を図って頂きたいと思う。



ユーモア溢れる語り手で会場を楽しませてくれたれいほくNPO 岩元副理事

4. ボランティア団体活動報告

四国4県の各県代表団体より、ボランティア活動の報告があつた。

高知県は長香開発株式会社 取締役部長 阿部克広氏より「国道32号における清掃活動報告」と題し発表があつた。

報告では、「ゴミが多い場所は、人家・商店もない人目につかない所で、空の弁当、空き缶が多い。また、交通量が多い時期はゴミも多くなるので、ドライバーによるポイ捨てが原因ではないだろうか。今後は『ゴミを捨てさせない！』という思いを込め、マナーアップ啓発活動の一環とし取り組んでいきたい。」と話していた。



「国道32号における清掃活動報告」と題し発表を行う長香開発株式会社 阿部氏

愛媛県は社会福祉法人大洲幸楽園 信高潤氏より「オレンジロード活動報告」と題し発表があった。

大洲幸楽園は、身体や精神に障害を持ち、経済的な問題を含め日常生活をおくるのが困難な方が入所している施設である。園の方針の中で、「地域社会との交流を図り、社会人としての責任・自主性が発揮できるよう支援する」という項目があり、国土交通省のHPで“道路ボランティア”を見つけ「これだ!」と思ったそうだ。オレンジロードの清掃活動を行うようになって、入所者の顔がいきいきとし、自らが率先して作業を始めるようになったそうだ。

最後に園の入所者を代表し、岩澤ひろみ氏がスピーチを行った。スピーチの中で「花壇の世話をしているが、季節ごとの花を植えるたび、次は何を植えようかと心がワクワクする。また、みんなと一緒に作業する時間が私にとって幸せを感じるひとときである。これからも、自分ができることを一生懸命取り組み、オレンジロードの活動を楽しみに頑張っていきたいと思う。」と述べた。



「オレンジロード活動報告」と題し発表を行う大洲幸楽園の皆さん

香川県は株式会社 五星 GVG 代表 和田雅和氏より「みちもマインドもとてもクリーン」と題し発表があった。

約 4.5km の距離を年間 5 回清掃しており、平均 15 袋/回ものゴミを回収している。ボラ

ンティアを始めた当初は、50・60 代の社員が多かったが、近年は若い社員の参加が増加し、部署内でのコミュニケーションも向上し、心持ちも清々しく仕事の方にも良い結果を与えているそうだ。

今後も、安全に十分に気をつけ、若手社員に参加を促し、継続的に続けていきたい。清掃後は、充実した広報活動を行い反省会なども実施していくと話していた。



「みちもマインドもとてもクリーン」と題し発表を行う株式会社 五星 GVG 和田氏

徳島県は今切団地町内会 小林實氏より「官民協働によるポケットパーク誕生と管理」と題し発表があった。

一般国道 11 号の沿線に位置する今切団地。一般国道 11 号と県道の交差点に遊休地が存在していた。遊休地は管理がいきとどいておらず、雑草・雑木で車からの見通しが悪く、防犯上でもとても危険であった。そこで、今切団地町内会が立ち上がり、国・県・市など関係機関に訴え、ボランティアプログラムの一環としてポケットパークを誕生させたそうだ。

ボラティア活動は、日曜朝 6 時から 2 時間程度行っており、町内会から 7~8 割が出席している。最近では、近くの企業も手伝ってくれるようになった。

今後の課題として、「高齢者にはポケットパークを憩いの場または、生き甲斐を持ち続けながら頑張ってもらうための場所作りを目指し、若者には、ボラティア活動の後継者とし

て活躍してもらいたいと考えている。」と話していた。



「官民協働によるポケットパーク誕生と管理」と題し発表を行う今切団地町内会小林氏

5. 大豊町の魅力紹介・

地域おこし活動報告

「大豊町の取組「交流事業」と題し、大豊町総務課 課長補佐 北村邦彦氏、「『本場の本物』大豊町の碁石茶」と題し、大豊町産業建設課 課長補佐 大石雅夫氏から報告があった。



大豊町の取組の紹介する北村課長補佐



碁石茶について説明する大石課長補佐

碁石茶は、昨今「健康飲料」としてメディアで注目を集めている。

碁石茶の効果効能として、成人病の予防、便秘改善などがある。また、インフルエンザの予防にもなるお茶という研究結果も発表されている。実際に地元の大豊小・中学校の生徒を対象に高知大学医学部の協力を得て臨床試験を行った結果、平成 21 年実験時は、碁石茶を飲用していた生徒は、かかりにくい又はかかっても軽症であった。平成 22 年実験時は、碁石茶を飲用していた生徒は、誰一人インフルエンザを発症しないという結果が出ている。

インフルエンザ予防として、碁石茶をお試ししてみては。



碁石茶をお土産として頂いた

6. 郷土伝統芸能「^{ながぶちかくら}永湊神楽」披露

永湊神楽の伝わる永湊地区は、大豊町と徳島県と県境に位置する地域である。

永湊神楽は、吉野川を挟んで接する岩原地区に伝えられる岩原神楽とともに、昭和 55 年に国の無形文化財に指定され、現在は、永湊神楽保存会の皆様によって伝統が守られている。



披露してくれた永瀧神楽保存会の皆さん
拍手喝采であった。

私は永瀧神楽を見るのは初めてだった。あんなにも迫力があり、軽快なリズムの舞だと思わなかった。もっと、たくさんの方に知ってほしいと思った。

7. ボランティアと道路に関する

話題提供

「ボランティアと道路に関する話題提供」と題し、四国地方整備局 道路管理課 課長河野一郎氏よりお話を頂いた。

その中で土佐道路の街路樹について話があった。土佐道路にはアメリカフウという街路樹が植栽されており、秋になると見事な紅葉を見ることができる。しかしながら、地元の方からは「害虫が出て困っている。」や「落ち葉を側溝に詰まって困っている。何とかして欲しい。」などの意見が寄せられていたので、約 1000 件の方にアンケートをとった。アンケートの中では前向きな意見も寄せられており、維持管理していく中で、地域の方も含めボランティア活動を進めていきたいと話していた。



話題提供して頂いた四国地方整備局 河野氏

8. 次回開催県への引継ぎ式

ふれあい四国路は、四国を時計回りの開催されており、次回開催県は愛媛県である。

引継ぎ式とし、高知県側から坂田実行委員長と岩崎大豊町長が、愛媛県側からは大洲幸楽園の皆さんが引き継ぎを行った。



9. 閉会のことば

四国地方整備局 土佐国道事務所長 三保木悦幸氏より閉会のことばがあり、ふれあい四国路 2011 in 大豊は幕を閉じた。



閉会の挨拶をする土佐国道事務所長 三保木氏

10. さいごに

交流会に参加し、皆さんの話の中で共通していたことは「高齢化」であった。確かに、高知県全体をみても高齢化は進行しているが、ボランティアに年齢は関係ないと私は思う。

弊社でも、道路ボランティアを行っており、一般国道 32 号の清掃を行っている。



報告の中で「自分達のできることから」とありましたが弊社では、今年 6 月、東日本大震災の被災者を支援しようと、県内の有志が

「宮城県を元気にする高知応援隊」結成し、弊社からも 14 名が現地ボランティアスタッフとして参加した。その他にも、エコ活動として太陽光発電・エコカーの導入、ゴミの分別を徹底し「自分達ができる事」を実施している。これからも、継続し新たな「自分達ができる事」を見つけていきたいと考えている。



南三陸町で炊き出しをする様子

最後に、貴重な交流の場を準備して頂いたふれあい四国路 2011 in 大豊の実行委員会、並びに大豊町役場の皆さんありがとうございました。